

富士通コンポーネントグループ 2023年度 環境報告書

富士通コンポーネントグループは、環境を経営の最重要課題の一つとし、提供する製品・サービスと事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、持続可能な社会の実現と地球環境保全に貢献していきます。

1. ごあいさつ

2016年に発効された「パリ協定」、2015年に採択された持続可能な開発目標（SDGs）などの理念が世界中に広く浸透しており、環境保全に向けた動きが加速しています。

日本では、経済産業省がグリーン転換（GX）構想を掲げており、企業においては、自社が排出する温室効果ガスの排出量削減に向け、自ら目標設定し、その実現に向けた取り組み内容を公表すること、自社のサプライチェーンに働きかけを能動的に行い、サプライチェーンにおけるカーボンニュートラルの実現を図っていくこと、そして「市場のグリーン化」を牽引していくことが求められています。

私たち富士通コンポーネントグループは、「環境を大切に、より良い企業活動を行うこと」を理念として、1998年より環境負荷の低減活動を実施しています。

当社では、温室効果ガス排出量をはじめ、電気や水の使用、産業廃棄物の削減にも積極的に取り組むとともに、取引先のご協力のもと、サプライチェーンを通じた環境負荷低減活動を進めています。

市場に投入する製品そのもののグリーン化を進める一方で、例えば、クリーンなエネルギーへのアクセス確保に向けたEV/PHVや太陽光発電用のリレー、産業と技術革新の基盤を作るインフラ整備に役立つメッシュネットワーク用製品などの開発を促進することにより、我々のお客様を通して科学技術イノベーションによる「市場のグリーン化」に貢献しています。

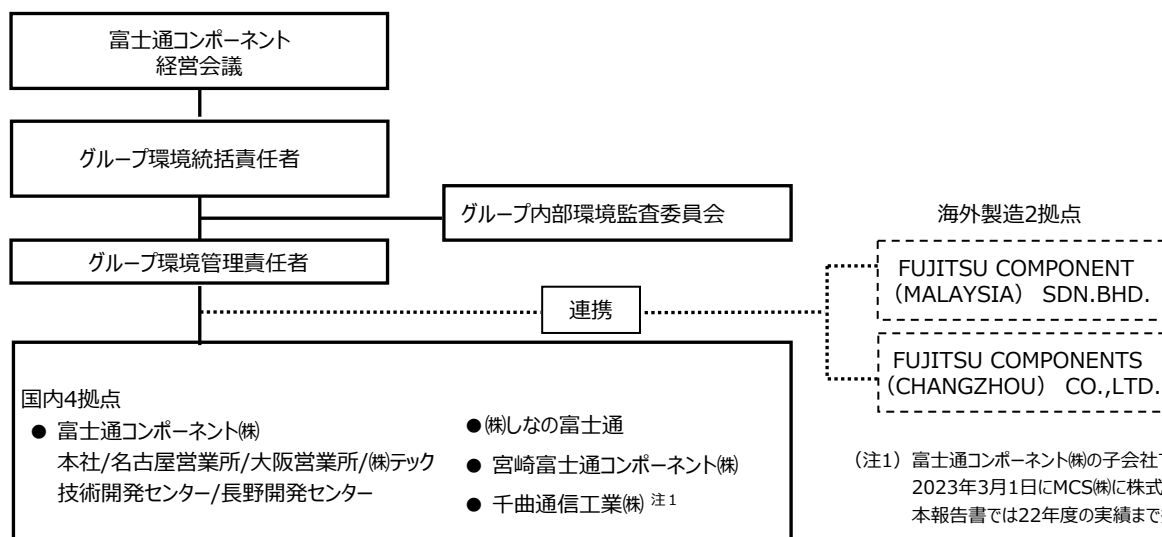
事業活動に加え、社会貢献活動も積極的にを行い、地域社会との共生や生物多様性保全に取り組み、直接的/間接的に人と環境にやさしい社会の実現を目指しています。



富士通コンポーネント株式会社
代表執行役社長 山本真二



2. 富士通コンポーネントグループ環境活動の推進組織体制



(注1) 富士通コンポーネント(株)の子会社である千曲通信工業(株)は2023年3月1日にMCS(株)に株式を譲渡いたしました。本報告書では22年度の実績まで掲載します。

3. 会社概要

本社	富士通コンポーネント株式会社
所在地	〒140-8586 東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー
代表者	代表執行役社長 山本真二
設立	2001年10月1日
事業内容	リレー、キーボード、タッチパネル、サーマルプリンタ、無線モジュール、KVMソリューション、複合デバイス（ユニット製品）の製造・販売
資本金	9千万円
資本剰余金	128億1千万円（2023年3月末日現在）
決算期	3月31日
従業員数	2,215名（連結 2023年3月末日現在）
グループ構成	当社含み国内3社（うち1社は販売会社）、海外7社（うち5社は販売会社）の10社にて構成

4. 環境方針

■ 富士通コンポーネントグループ環境方針

理念

当グループは、地球環境保全への取り組みを最重要課題であると認識し、「環境を大切に、より良い企業活動を行うこと」を理念とし、コンポーネント製品の開発、設計、製造、販売を行う企業であることを踏まえ、持続可能な開発目標（SDGs）に沿った豊かな社会の実現に向けて、ISO14001に準拠した環境マネジメントを推進する。

行動指針

- ・当グループの理念である環境保全への取り組みを最重要課題と捉え、当グループの活動、製品、サービスに関する環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
- ・未来の世代のために地球環境を守る環境活動を通じた持続可能な社会の実現に取り組む。
- ・環境と経済の両立に貢献する製品を積極的に提供する。
- ・当グループの活動、製品、サービスに関する環境関連法規、当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
- ・当グループ指定の有害物質を「入れない」「使わない」「付けない」「出さない」の考えで全廃を維持する^(注1)。
- ・社員一人ひとりは、それぞれの業務と市民としての立場を通じて、持続可能な資源の利用^(注2)、気候変動対策のためのカーボンニュートラル推進、生物多様性保全を始めとした環境の改善に努め、更に広くこれらの社会への普及啓発を図る。

注1 法規制等から除外される用途は対象外とする。

注2 資源の多くは枯渇性のものであり、可能な限り長年に活用できるよう資源を有効に使用するため、環境配慮設計、省エネ、省資源、廃棄物削減、リサイクル等を推進する。

重点項目

当グループの活動、製品、サービスに関する環境側面のうち、次の項目を環境マネジメントの重点項目として取り組む。

1. 製品のライフサイクルにおける環境価値の向上
2. 社会貢献活動の推進
3. エネルギー消費原単位の改善
4. 廃棄物排出量原単位の改善

附則

1. この環境方針は文書化し、当グループの全領域、全社員に周知させるとともに、一般の人にも開示する。
2. この方針の取扱部門は、富士通コンポーネントグループ環境マネジメント事務局とする。

2023年4月1日
富士通コンポーネントグループ
環境統括責任者

5. 富士通コンポーネントグループ第9期環境行動計画／実績（2022年度～2024年度）

富士通コンポーネントグループ第9期環境行動計画を策定し、2022年度から2024年度末までの具体的な取り組みを設定し活動を行っています。2022年度の活動では、宮崎富士通コンポーネントにおける【エネルギー消費原単位の改善】が未達成となりました。市場動向の変化に伴い、期初の生産計画に変更が生じたことが影響しました。

項目	第9期環境行動計画（目的）	2022年度		
		目標	実績	
社会への貢献	【製品のライフサイクルにおける環境価値の向上】 環境に配慮し、下記項目のいずれかを満足した製品を2024年度末までに10製品以上開発する。 (1)エネルギー効率がトップレベル製品（注1） (2)資源効率を1%以上向上した製品（注2） (3)エネルギー・資源効率の向上につながる新技術開発 (4)製造工程の改善によるエネルギー・資源効率の向上した製品	3製品開発	3製品開発	達成
	【社会貢献活動の推進】 社会・環境課題の解決に取り組む活動を推進する。	27件	29件	達成
自らの事業活動	【エネルギー消費原単位の改善】 省エネ法に基づき、事業所におけるエネルギー消費原単位を直近5年平均から毎年度1%以上削減する。（注3）	別表1参照		一部未達成
	【廃棄物排出原単位の改善】 廃棄物排出原単位を直近5年平均以下にする。（注4）	別表2参照		達成

別表1 エネルギー消費原単位における2022年度目標／実績

拠点名	原単位	2022年度目標（注5）	2022年度実績	
富士通コンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	0.997（注6）	0.893	達成
しなの富士通	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{売上げ金額 (千万円)}}$	2.611	1.836	達成
宮崎富士通コンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{生産数量 (千個)}}$	0.0187	0.0204	未達成
千曲通信工業	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{生産数量 (百万個)}}$	1.138	0.945	達成

別表2 廃棄物排出原単位における2022年度目標／実績

拠点名	原単位	2022年度目標（注5）	2022年度実績	
富士通コンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	82.7	76.7	達成
しなの富士通	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	20.0	15.4	達成
宮崎富士通コンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{生産数量 (百万個)}}$	365.9	294.1	達成
千曲通信工業	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{生産数量 (百万個)}}$	48.9	47.3	達成

（注1）エネルギー効率においてトップレベル製品（世界初、業界初、世界最高、業界最高など）をはじめとした、市場の上位に相当する基準を満たす製品。

（注2）製品の省資源化（製品の小型化、軽量化、薄型化、部品点数の削減）または資源循環性（廃棄量の削減、リサイクル性）の向上。

（注3）エネルギー消費原単位＝エネルギー消費量（t-CO₂）／生産量（売上げ金額または生産数量） CO₂換算係数は省エネ法で公表された直近の数値を使用する。

（注4）廃棄物排出原単位＝廃棄物排出量（kg）／生産量（売上げ金額または生産数量）

（注5）直近5年の実績平均をもとに目標値を算出

（注6）期中で計画値の見直しを実施

6. 環境への取り組み

■ 環境配慮製品の開発

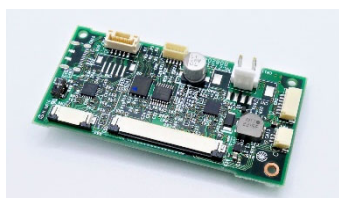
富士通コンポーネントグループでは、エネルギー効率や資源効率に優れる製品の開発を推進し、環境と経営の両立に貢献する製品を積極的に提供しています。



■ 主な開発製品



リレー



サーマルプリンタ制御基板



KVMソリューション

区分	製品群	開発製品	削減率（従来品比）
エネルギー効率	リレー	許容電流アップによる省消費電力化（FTR-E1-HCリレー）	省消費電力率：50%
資源効率	サーマルプリンタ	搭載部品の小型化による資源削減（制御基板：FTP-62GDSDL2XX）	重量削減率：11%
	KVMソリューション	同梱ACアダプタ包装仕様変更による資源削減（包装用ポリ袋削減）	削減率：100%

■ 社会貢献活動

富士通コンポーネントグループ各社は、地域社会との共生や生物多様性保全を目的に、社員のみならず家族も参加した社会貢献活動を行っております。

感染症影響下での活動のため、柔軟な発想での社会貢献活動を拡大しています。



■ 主な活動内容



コンタクトレンズケースの回収・寄付
富士通コンポーネント本社（東京都品川区）



工場周辺の清掃活動
富士通コンポーネント技術開発センター（長野県須坂市）



外来種ハルサキヤマガラシ駆除活動
しなの富士通（長野県飯山市）



工場周辺の清掃活動
宮崎富士通コンポーネント（宮崎県日南市）



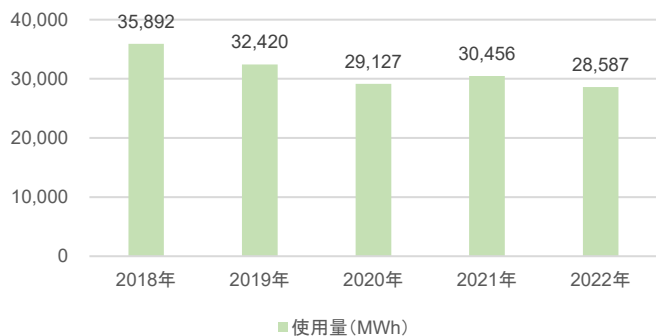
工場周辺の清掃活動
千曲通信工業（長野県佐久市）

■ 地球温暖化防止への取組み（温室効果ガスCO₂排出量の削減、エネルギー消費原単位の改善）

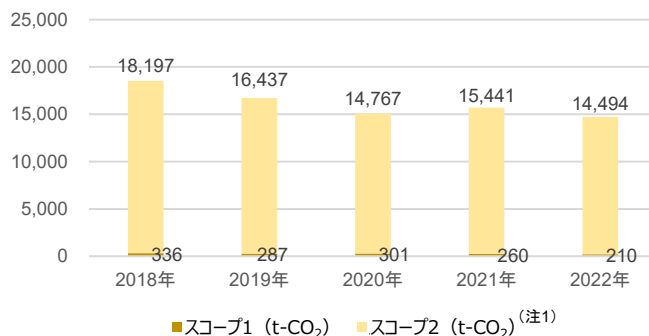
エネルギー効率の改善によるCO₂排出削減のために、各拠点において電力、A重油、LPG等の動力削減に取り組んでおり、再生可能エネルギー導入も検討中です。また上水や地下水の使用量削減にも、継続して取り組んでおります。



■ 電気使用量の推移

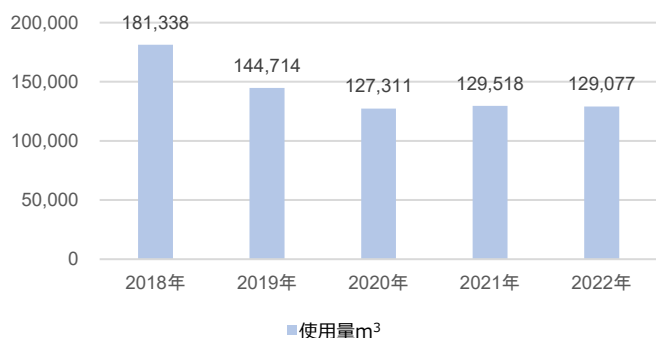


■ CO₂排出量の推移



(注1) スコープ1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
スコープ2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

■ 水使用量の推移

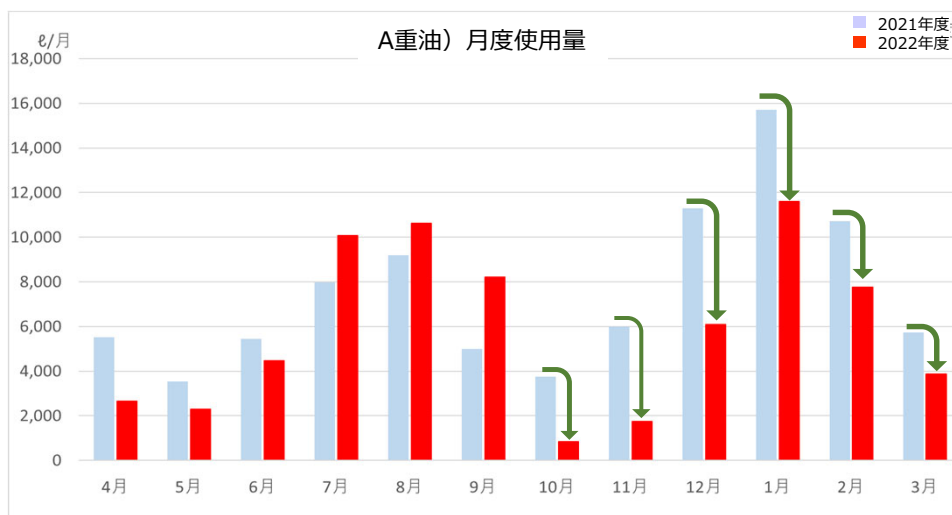


トピックス

【エネルギー効率改善】 工場操業に合わせ、きめ細かく空調運転を行いCO₂排出量を削減

エネルギー使用効率の改善によるCO₂ 排出削減のために、国内4拠点の代表者で構成する省エネルギー推進ワーキンググループによる削減活動を継続しています。

2022年度活動のトピックスとして、製造工場の操業に合わせ、クリーンルーム空調やボイラーの稼働をきめ細かく管理し、特に冬季におけるA重油の削減を図りました。これにより21,295L（15.7t-CO₂）を削減しました。



■ 産業廃棄物削減への取り組み

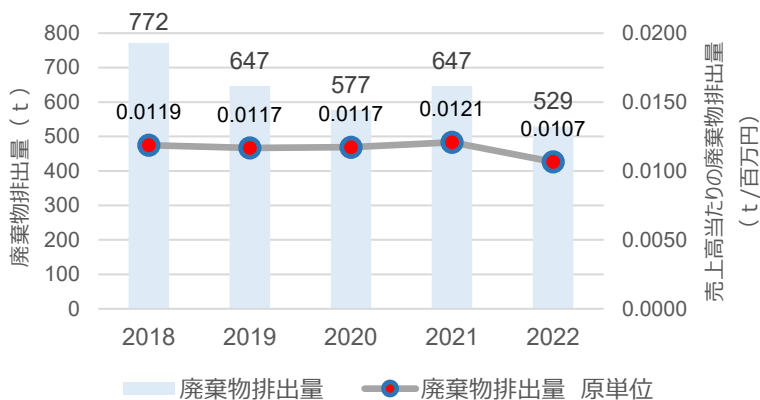
富士通コンポーネントグループでは、社員一人ひとりが3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進を意識し、分別に取り組んでいます。

また職場や製造工程から排出する廃棄物は再使用やリサイクル（再資源化）を推進して、排出量の削減に努めています。

更に、当社製品の一部（キーボード、サーマルプリンタ、KVMソリューション製品）に対して、しなの富士通リペアセンターにて市場に出荷した製品のリペアサービスを提供しており、当社製品を長期ご使用いただくことによるサーキュラーエコノミー（循環型経済）に取り組んでいます。



■ 廃棄物排出量の推移



■ リペアサービス提供による製品の長期使用



7. 製品含有化学物質管理とグリーン調達

■ 製品含有化学物質管理

すべての購入品は「環境共通購入仕様書」により欧州RoHS指令、REACH規則などの環境法規制に適合した調達を推進しています。

「環境共通購入仕様書」にて指定した富士通コンポーネントグループの含有・使用禁止物質に対しては「含有禁止適合保証書」による適合確認、さらに「chemSHERPA」(注1) による環境法規制順守の確認を行い、富士通コンポーネントグループの製品および製造工程への含有・使用禁止物質の混入防止や地球環境の保全および生態系への影響の軽減に取り組んでいます。

(注1) アーティクルマネジメント協議会 (JAMP) の情報伝達共通スキーム (Chemical information Sharing and Exchange under Reporting Partnership in supply chain)



■ グリーン調達

サプライチェーンを通じた環境負荷低減活動を進めており、取引先様には環境マネジメントシステムの構築と地球温暖化防止の活動について取り組みをお願いしています。

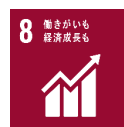
8. 責任ある鉱物調達対応

■ 高リスク鉱物への対応

当社製品は、経済協力開発機構（OECD）のガイダンス^{（注1）}を参考にし、高リスク鉱物の調査^{（注2）}を推進しています。調査では、Responsible Materials Initiative（RMI）の報告テンプレート（紛争鉱物およびコバルト）を使用しています。お客様のご要求に信頼できる情報を提供するため、引き続き製錬業者特定やサプライチェーン透明化への取り組みを行ってまいります。

（注1） 紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス

（注2） タantal・錫・金・タングステンおよびコバルト・マイカを調査・特定



9. 外部コミュニケーション（外部評価）

■ ISO14001：2015年版の外部認証を取得

富士通コンポーネントグループは2016年度からISO14001：2015年版を運用しています。



■ EcoVadis サステナビリティ評価で「シルバー」を獲得

EcoVadis社（本社：フランス）のサステナビリティ評価において「シルバー」と認定されました。

特に「環境」においては積極的な取り組みが評価され、80点という高い評価を得ております。



■ 本書に関する問い合わせ

富士通コンポーネント株式会社
事業推進ディビジョン事業企画セクション

住所 〒382-0076 長野県須坂市大字須坂1174

Tel 026-248-5566

E-mail fcl-contact@cs.fcl-components.com

本報告書は、富士通コンポーネントグループの日本国内の組織に関するものです。

富士通コンポーネント株式会社

〒140-8586

東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー

発行責任部署 事業推進ディビジョン事業企画セクション

編集責任部署 営業統括ディビジョンマーケティングセクション

発行年月日 2023年6月30日

記載事項対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日（2023年度計画も含む）